

①事業の基礎情報

事業名	タカハマ！まるごと宝箱事業		担当部・グループ名	こども未来部 文化スポーツグループ							
実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度		担当 GL 氏名	鈴木 明美							
新規・継続の別	継続事業		電話番号(内線)	52-1111(内線 300)							
総計画(基本計画)体系	個別目標	(3)人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます		予 算 ・ 事 業 名	予 算 書 上 の						
	こんなことに取り組みます	・地域の人たちがさまざまな先生役となり、地域の人たち(特に子ども)の成長に関わる機会を増やします。 ・地域の良さ(歴史、文化、伝統など)を学び、地域の魅力の掘り起こし・情報発信を進めます。		款	10款 教育費						
	みんなで目指すまちづくり指標名	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合		項	5項 社会教育費						
		現状値(H25)	72	実績値(H26)	70	実績値(H27)	70	実績値(H28)		目標値(H29)	76
				目	3目 生涯学習推進費	事業名	4 タカハマ！まるごと宝箱事業	総合戦略	■該当する □該当しない		

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	★まちの魅力を掘り起こし、磨き上げ、発信するというまち全体の共同作業が新たなつながりを生み、学びにかかわる「心地よさ」とともにまち中に伝播し、人とまちの魅力や高浜市に対する愛着や誇りを高める。さらに、高浜市の魅力を 100 年先の子どもたちまで受け継がれるよう紡いでいく。		
対象(誰・何を対象に)	市民	対象の数量	46,373 人
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	☆高浜市のあらゆる世代の市民が集い、歴史・伝統・文化・自然・民話など、先人たちが長い年月をかけて培い、継承してきた個性豊かな魅力や気づいていない眠れる地域資源や歴史秘話などにさまざまな視点から迫り、さらに磨きをかけて、「市民の財産」として将来へ語り継ぎ、まちづくりに活用されるようになっている状態。		

③事業にかかる事業費概要

平成 27 年度 (当初予算額)		決算額		主な内容
事業費総額 (千円)		716	811	・講師等謝礼 30 千円 ・普通旅費 4 千円 ・消耗品費 112 千円 ・印刷製本費 580 千円 ・公共施設会場使用料 8 千円 ・庁用器具費 77 千円
財源内訳	一般財源	716	811	
	特定財源	国・県支出金	—	
		その他	—	
補助事業・単独事業の別		単独事業	単独事業	



▲「たかはまとかわら」おひろめ会にて



▲「高浜の桜をめぐろう」市役所前にて

④平成 27 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

	何を・どのように・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
実施内容	◆「学び合い・語り合いの会」を月 1 回のペースで開催 桜を語ろう（4月）、伊勢湾台風を語ろう（6月）、専修坊の由来と星川皇子との関わり（8月）、馬、たてまつる（8月）、専修坊と蓮如上人との関わり（9月）、専修坊と大浜騒動（10月）、正月料理をつくって味わおう（12月）、えんちょ獅子を語ろう（1月）、高浜の養鰻を語ろう（2月）	H27.4～ H28.3	計 12 回開催 約 30 人/回 語り合いの記録
	◆愛知教育大学との連携（講座の開催）	H27.5	語り合いの記録
	◆名古屋市立大学との連携（瓦に関する聞き取り調査、かわらフォーラムの開催、「たかはまとかわら」編集・発行）	H27.6～ H28.3	イベントの開催 冊子 900 部
参画・協働・ 情報共有の工夫	★「学び合い・語り合いの会」を開催する際に、発表者からの一方的な発信だけではなく、参加者同士の語り合いができる雰囲気作りを心がけた。		
	★地域の人が収集した資料や写真を発表の場で用いる等、成果を共有することに心がけた。		
進捗状況	当初に掲げた計画どおり、順調に進めることができた。		
実施内容に 対する成果 (事業の自己評価)	☆ 学び合い・語り合いの会を定期的で開催することにより、徐々に語り合いの記録が蓄積されてきている。		
	☆ 大学との連携によるフォーラム開催や調査実施により、若い世代や市外の方からの刺激を受けたことにより、高浜の魅力を再発見する機会が得られた。		
	☆ 大学との連携による冊子作成により、事業の成果物が得られた。		

⑤課題と今後の取組みの方向性（平成 27 年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
<u>(1) 取組み内容の発信</u> ・「学び合い・語り合いの会」で得られた記録をとりまとめて形にする必要がある。	・「学び合い・語り合いの会」を定期的開催するとともに、とりまとめた資料を冊子化する等で発信する。
<u>(2) 周知と参加機会の拡充</u> ・こども若者を含めた多世代の方に興味をもってもらい、緩く長い繋がりをもつ仕組みを考える必要がある。	・多世代の方に興味をもってもらうために、様々な角度から開催テーマを設定する。
<u>(3) 市誌編さんとの連携</u> ・平成 28 年度から始まる市誌編さんとの連携を図っていく必要がある。	・「学び合い・語り合いの会」で蓄積された資料や関わった人材を、市誌編さんに活用していく。

⑥課題解決に向けた平成 28 年度の具体的なアクション（案）

	何を・どのように・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに (年月)
計画(案)	◆市内を中心として、会場を屋内に限らず屋外を活用し、体験や対話といった様々な要素を取り入れて「学び合い・語り合いの会」を定期的開催	随時
	◆語り合った内容をテーマごとにまとめた「タカハマ！まるごと宝箱」冊子として出版し、おひろめ会を実施して広く PR を行う。	H29.3
参画・協働・ 情報共有の工夫	☆事業を PR していく際に、参加者や実際の実施風景の写った写真を活用し、より親しみのもてる内容とする。	
	☆「学び合い・語り合いの会」での発表に留まらない多様な参加方法（会への参加、写真撮影、情報収集等）により幅広い市民に参加してもらう。	

特記事項